

二宮町立山西小学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(2年次)

1. 実践の目的

学習活動において「主体的・対話的で深い学び」を通して、二宮町が育みたい汎用的な資質・能力を育成したい。そのために小学校で身に付けた資質・能力を中学校に引き継ぎ、発展させることが必要である。そこで義務教育9年間を見通して、小・中学校が共通性と一貫性のある指導・支援を行うことが不可欠であると捉えた。このことにより、小・中学校の指導・支援がぶれることなく資質・能力を育成することができると考えた。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう力 人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

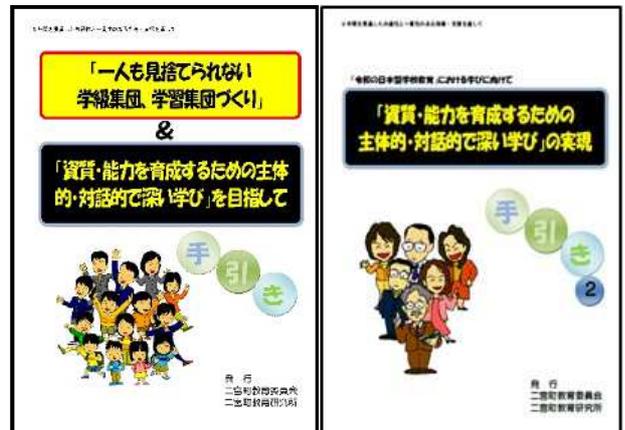
また、児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と思えるのは所属する集団で「自分のよさを発揮できていること」言い換えれば「自分にはよいところがあると思える」ことが重要な要素と考えられる。このように一人一人の児童生徒がかけがえのない存在として認められている必要がある。そのためには小・中学校を問わず「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」に前述と同様、共通性と一貫性を持って取り組む必要がある。このことが「学びに向かう力」の基盤づくりにつながると考えた。

以上2つを実践の目的とした。

2. 実践の内容

(1) 5校統一の講師と研究の手引き

研究を推進するに当たり共通性と一貫性をもって研究に取り組めるように、二宮町5校統一の講師として教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を迎え、各校で行われる校内授業研究会に事前検討会を含めて指導・助言を仰いでいる。また講師監修のもと研究の手引きを作成し、全ての先生方に配付し、それに基づいて研究に取り組んでいる。



(2) 研究授業、研究協議の様子

今年度は6月10日に5年生による社会科、9月9日に3年生による社会科、11月11日に1年生による国語科の授業を行った。

5年生では、農業について「昔より時間をかけずに多くの米がとれるようになったのは、なぜだろう」という問いについて話し合った。話し合った内容を、chromebookを活用し、まとめながら授業を進めた。

3年生では、「工場ではたらく人は、どのようなことに気をつけているのだろう」という問いについて話し合った。教科書から読み取ったことをもとに、自由に立ち歩きながら学び合う姿があった。

1年生では、はしご車の挿絵から、どんな特徴があるのか言語化しながら意見交換する授業を行った。相互指名をする姿も見られた。



研究協議では、研究3年目ということもあり、研究授業を行った学年を今まで担任した経験のある先生から「今までの指導」や「子どもの変容」について共有する場を設けた。「点」となる授業について年度を越えた「線」で捉えることを意識して協議を行った。

3. 実践の成果

(1) 教師の変容

「6つの手立て」や「話し合いの授業」については、研究を続ける中でどの教師の中にも定着してきた。その中で、「子供達に質問させるためには、どのような手立てが必要か」や「より充実した話し合いをするために、單元ごとに目標を設定し、達成していく」など、それぞれの教師が、子供達の学習をより深いものにさせるための手立てを考え始めている。

今後、積み重ねてきた実践を共有する場をより多くしていこうと思っている。

(2) 子どもの変容

「去年もこのやり方で授業していたね」と子どもが発言しており、話し合いや6つの手立てについて理解を示している。一つの教科で話し合いの形で授業をしていると、他の教科の場面でも自然発生的に相互指名が始まるなど、子どもの中にも定着してきている。

4. 今後の展開

(1) 残された課題

教科によっては話し合いの形で学習を進めることに難しさを感じている教員もいる。教科ごとに、具体的にどのような発問が効果的か、具体的な手立て等を探っていく必要があると感じている。

また、1年生は年度の後半から相互指名を始めたが、指名する人を選ぶのに時間がかかるなど進行に対しての課題が出てきた。発達段階や子どもたちの実態に応じて臨機応変に手立ての内容を試行錯誤していかなければならないと感じている。

さらに、授業の形として話し合いは定着しているが、それが日常生活にまで落とし込めていないと感じている。日々の生活に即した問題解決が図れるよう、教師が働きかけていかなければならないと感じている。

(2) 今後の研究について

今後については、3年間研究してきたことについて、担任がアレンジを加えたものや、より話し合いが深まる手立て等の実践を共有する場を、今まで以上に積極的に設けていきたいと思っている。型は教師や子ども双方に定着が見られているので、よりよくなるアイデアを広げていきたい。

また、習得の授業についての研究授業を行いたいと思っている。話し合いだけでなく、習得の授業のあり方について知見を深めていきたいと思っている。